

フォレストニュース

植林が地球を救う
令和3年(2021)5月10日
No. 161
発行 高津啓洋

300本植樹・コロナ禍でも



マスクをしながらの植樹活動

パラグアイのイタウグア町のナランホ地域の広場で青年連合と緑の会の協力でコロナ禍の中4月25日、11時から3時間ほど植樹を行い、300本の果樹と花木を植えました。参加者は20名でした。イタウグア市会議員のラモンカルドーソ氏も参加する中、ナラ

ン女史も挨拶を述べました。ロケ・アントニオベニート、パラグアイ青年連合代表が挨拶で、「今回の植樹活動は、温暖化や、自然破壊から環境を守るためのもので、若者たちが協力する事で環境保護の意識が高まる事を期待してます」と述べました。(伊達記)



ンホ委員会会長のブルーノ・フィゲレド氏が挨拶し、事務局長のロサカボジュララマ

大きく成長したマリア樹のニーム並木

つの芋として、大変に期待されています。レダにおいて



立派に成長したニーム並木

も数年前から植えられていますが、葉が長く伸びる為、長い柱を準備していないといけません。

その代わりに水の多いレダのどこにでも生えている、ヤシの木の下に植え、葉を絡ませて生産しようとしています。

マリアアウシリアドーラに、今年も青年奉仕隊が少ない人数ではありますが、公園整備などボランティア支援を行います。2012年に行った青年奉仕隊の植樹活動によって植えられた、ニームの並木が立派に育っています。

高温多湿を好むヤムイモには水がいつもある場所が必要なため、どこでもというわけにはいきません。

パラグアイの各地に植樹された木々は、学校や生徒たちの篤い保護を受けて立派に成長しています。



成長著しいヤムイモ

食糧危機救うヤムイモ



ヤシの木を支えに

やむ芋は食糧難を解決する可能性のあるひと

春期セミナー延期に

コロナ禍の中、緊急事態の延長等で、会場となる国立オリンピック青少年総合センターが、使用できなくなりました。皆様には大変ご迷惑をおかけいたしますがよろしくお願いたします。

フォレストレーター

2021年5月10日

●アマゾンを中心とした森林火災のその後

一昨年から、アマゾンやパンタナール地域の森林火災が深刻な状況と報道されていましたが、のど元過ぎれば熱さを忘れるではありませんが、実際は野焼きや森林火災は収まっています。

●木の伐採が一番多かった

ここ数年、ブラジルの厳しい環境保護法や当局による取り締まりから逃れてやって来た開発業者が、資金力にもものを言わせてパラグアイ北部の密林で乱開発を行っている。地元環境保護関係者の協力を得て、「世界最悪」とも言われるパラグアイ密林の乱伐の現状をレポートした。(これは、世界日報の1916年の記者がレダから上陸し、現地踏査によったの記事です。)

●森林伐採は世界で規模深刻

「ここはパラグアイでも隔離された土地だから、警察も軍も入ってこない。外国(主にブラジル)から来た開発業者や牧場主はやりたい放題。連中の一部は土地マフィアみたいなもので、完全武装しているから地元の間人も怖がって近寄らない。森の中で会っても絶対に刺激しないでほしい」

アマゾン熱帯雨林の保護に世界的関心が注がれる中、その陰に隠

れて目立たないが、パラグアイの森林伐採は世界最大規模だ。パラグアイの首都アスンシオンで日系人向けの新聞「日系ジャーナル」を出版する伊藤玄一郎さんは断言する。「パラグアイの森林伐採が世界で最も早く進行しているのは間違いないと思います。(近年では)1日で2000もの森林が開発や違法伐採で消失しています」。

●だから植樹が必要。

当会、NPO法人地球の緑を守る会は、2000年から今日まで、パラグアイで植樹活動を続けてきました。当会顧問の宮脇昭博士は、土地本来の木を再生しないとできないとして、「日本一木を植えた男」と紹介されて来ました。高津理事長も、宮脇先生がお元気なうちに、パンタナールの自然植生を求めて、一緒に歩みたいと思っていました。森林保護と植樹が必要なことはだれの目にも明らかです。

●皆様からの植樹支援が活かされています。

当会は、今までも、パラグアイ



のチャコ地域やアスンシオン地域、南部のイグアス地域と数1000本単位の植樹を行政機関の市町村や学校などと取り組んできました。下の写真は、イタ市での植樹祭です。一昨年から1200本以上を4回に分けて植樹をしました。市長も熱心に駆けつけて応援してくれました。

(イタ市は、ワニ公園があります。今年の1月27日に7頭のワニが逃

げましたが、町の中心地で消防によって捕まえられて、人々に被害はなかったそうです。)

そして、今年はイタウグア市で植樹をしました。イタウグア市もイタ市同様に首都アスンシオンから車で1時間ほどの近隣都市です。特にイタウグア市は、パラグアイ



特産の刺繍でニヤンドウテイ、「蜘蛛の巣」と呼ばれるパラグアイ刺繍が有名です。



イタ市市長(右写真)と植樹参加者たち